

平成 25 年度

事業所名 : グループホーム たのはた 虹の家

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0373000710		
法人名	社会福祉法人 寿生会		
事業所名	グループホームたのはた 虹の家		
所在地	〒020-0021 岩手県下閉伊郡田野畑村田野畑120-18		
自己評価作成日	平成 25年 6月 15日	評価結果市町村受理日	平成25年9月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0373000710-00&PrefCd=03&VersionCd=02
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号		
訪問調査日	平成 25 年 7 月 5 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・保健・医療・福祉の機能が集中する敷地にあり、スムーズな連携体制がとれ安心して生活できる環境にある。 ・海の幸、山の幸の恵まれ、そこから季節を感じ生活できる環境にある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>国保診療所や社会福祉協議会と地続きの敷地に、グループホームのほか系列法人の特別養護老人ホームやデイサービスセンター、高齢者生活支援ハウスと棟続きで建てられ一帯は保健・医療・福祉の拠点となっており、これら施設・機関とは連携・協力関係が築かれ、利用者が安心して暮らせる環境にある。中でも、防災面では、系列法人施設と年4回の合同訓練のほか、グループホーム単独で年8回の訓練テーマを決めて自衛消防訓練を行ったり、地域防災協力隊の協力のもとで火災・避難訓練を行うなど、防災活動に積極的に取り組んでいる。その他ホームの生活を楽にするため、利用者の希望する食事を聞き、常に旬な食材による多彩なメニューやバイキング食等のほか、利用者は家庭的な雰囲気味わえるよう食事の準備、片付けにも関わりを持てるようにするなど、地域密着型の事業所として工夫しながら支援している事業所である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

事業所名 : グループホーム たのはた 虹の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は目のつくところに掲示し、日々意識をしながら、それをもとに支援することを心がけている。4月GH会議で再認識を行った。	法人の経営理念を踏まえ、事業所独自の「温もりとやすらぎのある生活の場を提供する」理念を作成し玄関や生活支援員室に掲げ意識付けをしているほか、その具現化のため事業運営方針に沿ったケアを実践するよう職員会議等で共有を図っている。	理念は、ホームが目指すケアの在り方を示す原点であり、折に触れて「温もりのある生活」「やすらぎのある生活」等の理念の意図を振り返り、職員間で話し合いを深め質の向上に繋がることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	・学校・保育園への運動会参加・村の祭りなどの催し物に出掛けたり美容院へも出掛け顔を知ってもらう機会を設けている。 ・個人で移動販売を利用している。 ・寿生会広報、GH独自の広報も発行し紹介等し発信している。 ・読み聞かせボランティアの来所がある。	週2回程度来所する移動販売車からお小遣いで菓子や果物などを購入するのを楽しみにしているほか、地域の小学校、保育園の運動会に参加し、玉入れなどに興じている。またホームの「ほのぼの通信」を近隣、地域の商店や学校にも配布し、ホームの理解や交流を深める機会をつくっている。	地域の一員として、村のお祭りなどに出掛けているが、更に地域と繋がりを深めるため、例えば、自治会等との関わりをもち相互に理解を深め、行事参加やホームの情報提供等、交流関係を築くことも一考である。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所独自の活動は行っていないが相談を受けた際には貢献できるように体制を整えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況や行事などを報告している。外部評価結果を受け、さっそく議題とし、策を講じたところである。	運営推進会議をこれまでの年4回から年6回としている。議題は運営状況の報告などであるが、それぞれの報告の中で、地域防災協力者の協力や利用者の避難訓練の実態、推進会議での今後の検討テーマ例、金銭管理のあり方等、様々な意見交換が行われており会議の活性化に向け努力している。	地域との関係を深めるうえで運営推進会議の機能を活用することは重要である。幅広いテーマを取り上げ安心安全のお話を駐在所から聞いたり、ホームの地域での役割などを話題にすることが大切である。老人クラブ、婦人会など外部の方々や応援団、見守り隊的な存在として連携を図ることも一考と考える。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	実情や取り組みは運営推進会議で伝えられている。また村主催のケア会議が毎月あり計画作成担当者が都合のつく限り出席している。必要時にはいつでも気軽に相談・協力依頼できる関係にある。	行政とは運営推進会議やケア会議の場を通じて、事業所の状況や課題等の理解を得ている。普段は電話や訪問により相談等を行うなど、その都度、指導助言や情報提供が得られ、連携・協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・毎年、内部研修をしている。10月に実施予定があり、外部での研修機会があれば参加も視野にいれている。 ・玄関にはセンサーコールを設置し安全、且つ拘束しないケアに努めている。	毎年、研修担当者が中心となって身体拘束廃止や虐待防止に関する教材を準備し勉強会を行いケア現場に活かしている。なお、利用者が外出しようとするときは、同行見守りするなど支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・毎年、内部研修をしている。 ・入浴介助など、日常業務の中で身体に変化等ないか確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・毎年、内部研修をしている。個々の必要性の話し合いはしていないが必要時には、法人内で相談に乗っていただける体制にある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に見学していただいている。双方で思い違いのないよう心がけ説明を行い理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・意見・苦情窓口を設置している。 ・アンケートを実施し、普段言い出せないかもしれないことを話せる機会を設けている。結果を会議などで話し合い運営に反映させるようにしている。	利用者との普段の会話の中から、また家族とは面会時や運営推進会議、家族交流会を通じて聞くように努めているほか、利用者・家族アンケート調査を行い、意見、要望の把握に努めている。要望等は利用者個々のものが多く、ケアに活かすようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の際に意見や提案を聞く機会を設けている。また、内容によっては、個別に代表者と話しをすることもある。	職員会議の場で率直に職員から意見や提案が出される。事業所内で即決実施されるもの、理事長の判断を仰ぐものなど、内容により対応は異なるが、例えば、居室や居間の床を安全確保の観点から、畳からフローリングの改修提案を活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得や研鑽向上の為の研修等に配慮していただいている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会が確保されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ブロック定例会・研修会・交流会に可能な限り参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込み、見学時に傾聴し、希望に沿えるよう、また、信頼関係が築けるよう努めているが初期段階で核心部分に触れる事は難しいと感じている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込みの時点で殆どの方が既にサービスを受けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	季節に合った行事の準備、畑の収穫祭を行うなど昔の風習を聞きながら料理の下ごしらえをする等、行っている。オセロ・ランプ・カラオケ・ゲーム等一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族通信や面会時に近況報告、相談をしている。また随時、必要と思われる際には電話連絡をしている。いつでも要望をきける体制にあり共に支えていけるよう努めている。家族交流会を年に一度のペースで開催しており、ある家族からは感謝しているとお礼状をいただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの移動販売や理美容院を利用している。 友人がホームを訪問できるよう職員が支援し、関係が継続されている。	これまでの繋がりをあまり望まない利用者もいるが、家族と連携しながら実家の様子やお墓参りなどに出掛けたり、馴染みの人や場との関係が維持されるよう支援しているほか、また将棋仲間等の来訪など、馴染みの人との交流を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中の状況、また、変化等があった際、パソコン入力や申し送り職員間で情報を共有を図り中立な立場で支援に努めている。自然と歩く事が困難と思われる方の下膳をする、湯呑茶碗を洗う、車椅子の方が移乗した際食卓椅子を引く、押してくれるなど利用者同士が支え合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までそういう場面はなかった。今後そういうような場面があれば相談・支援に努めたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話から聞き取っている。普段言にくいと思われる事などはアンケートを使用し、思いを聞きとるようにしている。	入浴時や食事の準備時の会話などを通じて、本人の思いや希望を聴いたり、アンケートを活用した聴き取り調査も行っている。なお、会話が困難な方には、本人の表情や動作から思いを汲み取るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の聞き取り、他でサービスを使っている場合には情報をいただくこともある。また、日常生活から得る事もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	計画に沿った記録を含め、なるべく細かいことまで記録し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ごとにケース記録をまとめカンファレンスを行い現状確認・必要・改善等の意見を出し合い、継続・変更を行っている。	利用者担当が毎月、ケア記録から課題、計画見直しの必要性などをまとめ、本人・家族と話し合ったうえでケア全体会議に諮り、最終的に計画作成担当者が計画の継続、変更について決定している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	細かいことまで記録をし、重要事項は日誌に載せつつ申し送りを行い、カンファレンスで計画、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物・通院・理美容院への付き添いを行っている。村外の商店に行きたい等、その方にニーズ対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	併設施設で行われる慰問を見学している。消防立会で消防訓練を行っている。地域防災協力隊の方々と訓練を行った。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望するかかりつけ医(診療所)にて健康診断、定期受診で状態把握をいただいている。	利用者全員が隣接する国保診療所(協力医療機関)をかかりつけ医としている。診療所では定期的健康診断等を通じ、利用者個々の健康状況のデータを把握しており、適時適切な受診が出来る関係が確立されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師に相談でき、支援いただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	色々な状況が想定されるので早い段階での話し合いは行っていない。そのような状況になった、あるいはなりつつある時に医師・家族・本人・事業所で相談し、それぞれが納得の元、チームで支援に取り組んでいる。	重度化への対応は自分で食事が出来ず医療行為が必要になった時点で家族と話し合うことで、入居時に本人、家族と確認している。また終末期への対応は、今後、看取るケースが出てくることも想定され、診療所、法人内看護との連携がとれることからできる範囲で対応することを職員間で話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年内部研修を行っている。事故発生時の緊急連絡・対応訓練は5月に行い、心肺蘇生・AED取扱い訓練は9月に行う予定である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月さまざまなテーマで訓練している。5月には地域防災協力者との合同避難訓練を実施した。	隣接する同一法人の特養ホーム等との合同訓練を4回、事業所単独訓練を8回と毎月避難訓練を実施している。各回毎に訓練テーマを決め、必要に応じ消防署の立ち会いや、また近隣の地域防災協力員(8名)の協力のもとで、夜間想定や避難誘導等の訓練を行い、安全確保に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・個人情報とは他入居者や外部の方々目につかないところに置いている。 ・トイレ誘導時の際の配慮した声がけ、人生の先輩であるということを常に念頭においた会話を心掛けている。	事業所の理念である「ぬくもりと安心」を感じてもらい、人生の先輩として人格を尊重する姿勢を基本として接するよう心がけ、呼びかけや会話等の際は、誇りやプライバシーを損ねないよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・日常生活の中で希望を出しやすいような会話を心掛けている。 ・希望、要望はアンケートを利用し出しやすくしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り沿うようにしている。なにか特別なことをするよりも、ゆったりのんびり過ごすことを好むので、そういう時間を大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・外出時には衣類を着替える。 ・理美容院に付き添う。 ・入浴後にクリームをつける方々や日々眉墨を使用している方もいらつしやる。また髭そりもしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・昼食・誕生会には希望のメニューをきく。 ・普段でも好みの物(田楽)を食べたいとの希望があれば提供する。 ・バイキング形式やバーベキュー昼食を行いいつもとは違った形で楽しみながら食べる。 ・GHで収穫した物を下ごしらえし食べる。 ・毎食一緒にテーブルで食事を摂っている。	誕生日のほか、普段も食べたいメニューを聞いて献立に反映させるとともに、好評のバイキング食等も取り入れ、楽しめる食事づくりに努めている。また、米とぎや野菜の下拵え、下膳、茶碗洗いなど出来ることを手伝ってもらい、楽しい食事にかかわってもらえるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・体調や状態を考慮したり医師の指示のもと一人一人に合わせた形態や量を提供している。 ・栄養士の献立のチェックもうけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後の歯磨き、義歯洗浄は毎晩行っている。不十分な方には介助も行っている。歯科受診をしている方は、衛生士より、磨き方の助言等をいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間ポータブル使用することで失敗を減らす支援をしていた。 ・排便チェックを行い状況把握に努めている。 ・コンスタント且つスムーズに排泄できるよう水分摂取・服薬・散歩・乳製品の摂取の提供に努めている。 	一人ひとりの排泄パターンを把握しながら、さりげないトイレ誘導により排泄に自信を持てるよう支援している。これにより、当初失禁が多い状態からトイレ排泄に改善された方もおり、現在オムツ利用からの自立に向け取り組んでいる方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・排便チェックを行い状況把握に努めている。 ・コンスタント且つスムーズに排泄できるよう水分摂取・服薬・散歩・乳製品の摂取の提供に努めている。 		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・一日おきの入浴が基本となっているが、入りたい方は毎日、早い時間を好まない方は最後にと希望を合わせている。 ・浴槽へ入りたくない方はシャワー浴をしている。 	入浴は隔日であるが、希望する場合は毎日入浴でき、ゆったりと入浴している方もいる。職員は介助、見守りをしながら、話を聞く良い機会となっている。寝る前に入浴希望の方には遅い時間帯(19時頃)の入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・起床時間、昼寝とも自由に行える環境にある。 ・寒い時は電気毛布・ペットボトルを湯たんぼがわりにする方やフローリング床でもなじみの布団で寝ている方もいる。 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・薬手帳や個人台帳でそれぞれ確認できるようになっている。朝昼夕、個々に分けて保管、服薬時には側で見守り、呼名や朝昼夕の薬であることを声に出して渡す確認をしている。それでも口に入れる際落としてしまう方には口へ入れるところまで援助している。変更があった際には日誌・掲示板入力をし、申し送りも周知となるまで続け状態の変化確認にも努めている。 		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・調理・片づけ・掃除・裁縫など一人一人が役割をもっている。 ・ドライブ・買い物・散歩・なじみのデイ利用者に会いに行く・将棋を楽しむなどの支援をしている。 		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・散歩・買い物・理美容院への付き添いをしている。 ・姪ごさんに会いたいとの希望があり隣市へ出掛ける計画をしている。 ・ご家族の方と食事や外出・外泊をする方もいる。 	出来るだけ戸外に出る機会をつかっており、法人の敷地が広いことから、敷地内の散歩(20分程度)は日課になっている。また、家族の協力を得て外食や外泊を楽しんで貰ったり、可能な限り利用者の外出希望をかなえる支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・金銭管理をできる方が殆どおらず、基本小遣いはGH管理としているが、必要時にはいつでも使えるようにしており、随時移動販売や自販機利用している。 ・本人持ちの小遣いを持っている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	宅配便が届いた後、お礼の電話をした際、本人との話しをしてもったり、近況報告もすることがある。利用者が頻繁に電話をしたいと思っている方もいるとは思われるが家族が望んでいないこともあるので積極的には行っていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・花を活け季節感を出している。 ・換気、温湿度に配慮し暗いと思われる場所には常時電気を点けている。 ・芳香剤の設置、常時換気扇を点ける、消臭剤を使用する、トイレ・浴室にはわかりやすいように表示している。	厨房や介護員室を取り囲むように各居室が配置され、食事の準備や調理のにおいや音が各居室や居間に届くようになっており、利用者の五感刺激に効果を生んでいる。共用空間には行事写真や季節の花を飾るなど生活感や季節感の醸成に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きなように過ごしてもらっており、個々で一人になる時間を作っている方もいる。また、朝・昼食後には居室で休憩を取ってもらっている。隣の部屋へお邪魔し談笑している方もいる。共有スペース以外の場所にソファをおく、自室にテレビを設置している方、介護士室前に広報・本・週刊誌をおき自由に部屋で見られるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ・ベット・鉢植え・ぬいぐるみ等をおいている。遺影や家族写真、裁縫道具をおいている方もいる。	居室はクローゼットが備え付けられ、明るく清潔感のある。テレビや鉢植え、遺影などが置かれ、壁には家族写真などが飾られており、それぞれ思い思いに居心地よく過ごせるつくりとしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・トイレ・浴室の表示 ・必要と思われる箇所へ手すりの設置 ・見える場所に物干し、台所が共有スペースから見える場所にあり、調理音などで米研ぎや茶碗洗わかる環境 ・履物の工夫や杖を使用しなくても移動できるような環境		